

平成28年度日本NGO連携無償資金協力署名式典

平成28年9月21日（水）、平成28年度日本NGO連携無償資金協力に係る署名式を当館多目的ホールにて執り行いました。同署名式では、隈丸優次特命全権大使と認定特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会（JMAS）の柴田幹雄現地事業統括責任者が、ヘン・ラタナ・カンボジア地雷対策センター長の立ち会いの下、「CMACに対する地雷除去に係わる能力構築支援事業（第3年次）」（供与限度額833,332米ドル）の贈与契約書に署名を行いました。

JMASは、2002年よりカンボジアでの活動を開始し、我が国のODAスキームの一つである日本NGO連携無償資金協力の下、これまで10年以上にわたって地雷及び不発弾の処理やCMACに対する技術移転の支援を行ってきました。この度署名された同事業においては、第1年次にJMASによってCMACの教育課程に新設された「統合地雷処理課程」を通じて、人力と機械を効率的に組み合わせた地雷処理の能力構築を、第2年次に引き続き支援します。また、3か年事業の最終年度として、事業終了後の持続可能性に重きを置き、これまで教育課程においてJMASの専門家が担っていた役割を、本事業によって教育を受けたCMACの教官が引き継ぎ、自立した教育体系の確立を目指します。



本事業は地雷除去を通じた貧困削減や、JMASより技術移転及び能力構築をされたCMACが行う南南協力や三角協力を通じたグローバル・パートナーシップの強化を念頭に行われる事業であり、ポストミレニアム開発目標（MDGs）として昨年国連総会で採択された持続可能な開発目標（SDGs）達成にも大きく貢献することが期待されています。



式典では、隈丸大使がスピーチを行い、今回の事業が対象地域の住民に直接役立ち、カンボジアと日本の更なる友好促進に繋がることを願っている旨述べました。JMASの柴田代表からは、関係者への感謝の意を表明するとともに、日本とカンボジアの国民の期待に沿えるよう、安全かつ着実に事業を推進していくことを約束しました。